

試行・検証等のテーマ

ゲーム依存がデジタルデトックスによって与える効果

背景 ・ 課題

課題を抱える子ども達の中には「ゲーム依存」による影響で人間関係構築の困難さ、不安定な生活習慣、極端な情報に偏った考えなどが原因となり、課題解決がなかなかできないと考えられる。

事業の ねらい

「ゲーム依存」を緩和するために『人』と『自然』による関わり、世界遺産のオホーツク、知床地域に広がる広大なスケールの「大自然」とそこに住む「人」との琴線に触れる体験とぬくもり感が溢れる場での『デジタルデトックス』の効果をねらう。

事業内容

＜実施にかかる体制＞

委員長：一般社団法人オホーツク自然教育普及協会 代表理事 佐々木 勇貴
副委員長：有限会社さんけん 代表取締役 天野 秀紀
委員：オホーツク農村漁村体験型ツーリズム推進協議会 会長 / 流水硝子館 工房長 軍司 昇
委員：北海道アウトドアガイド Mother Nature's Son 代表 三浦 隆浩
委員：有限会社北光興産 代表取締役 幸田 英治
委員：栗原 秀之、服部 典子、加古 真紀、三澤 遥穂、柿野 千晶、柿野 健二、滝川 尚正、川内 かおり、河野 百花、三澤 隼子、河野新太郎、花田 翔二郎、岡崎 佳深、岡崎 千香代、宮崎 奈津江
事務局：佐々木 聡子

＜テーマに基づいた試行、検証等の方法＞

事前・事後アンケートでの専門家による測定

＜活動の内容＞

- 実施期間：令和5年7月26日～7月30日
- 実施場所：オホーツク地域 美幌町・知床方面
- 参加者属性、人数：4名(小学生、中学生、高校生)
- 具体的なプログラム内容
＊別紙参照



成果

本事業を通して「身近な人や交友関係」「デバイスへの依存」「生活習慣」「コミュニケーション」「人間性」などに影響を与える可能性があることが示された。

完全にデジタルデバイスから離れ、見たことのない景色や植物を見て、触れたことのないものに触れ、静寂な時をゆっくりと感じ、いつもは野菜を食べないのに完食し、様々な香りに囲まれながら共同生活を送ることは、子ども達が抱える課題解決のキッカケとなる。

今後の 展開

- ・デジタルデバイスから意図的に離すことは、五感を感じやすくなるため、短時間でも環境を整える必要性を感じる
- ・食事を「作る」という行程は様々な効果が大きいと感じる
- ・親子向け、大人向けのプログラムにも可能性がある
- ・農業民泊で『人のぬくもりに触れる』経験をさせた時に相乗効果につながると考える
- ・予算は企業スポンサーやクラウドファウンディングを活用する